

[参考事項]

新技術名: 物理的防除と薬剤防除を組み合わせたラズベリー害虫の防除体系 (平成24~26年)

研究機関名 果樹試験場品種開発部
担当者 照井 真

[要約] ラズベリーの雨除け栽培では、白色反射資材と防虫ネットによる物理的防除に殺虫剤を組み合わせた防除体系により、果実に対するアザミウマ類及びオウトウショウジョウバエの被害及び葉に対するハダニ類の被害を防ぐことができる。

[対象範囲]

県内ラズベリー産地 (約2 ha) 及び新規生産者

[ねらい]

ラズベリーの雨除け栽培では、白色反射資材と防虫ネットを用いた物理的防除により、夏果でのアザミウマ類と年間を通じたオウトウショウジョウバエの果実被害を防ぐことができる(「実用化できる試験研究成果(平成24年度試験研究成果)」)が、秋果でのアザミウマ類の果実被害とハダニ類による葉の被害は防ぐことができない。そのため、物理的防除と薬剤防除を組み合わせた防除体系を確立する。

[技術の内容・特徴]

1. 物理的防除とは、雨除けハウス内の全面及び外周(1.5m幅)に白色反射資材を敷設し、かつハウスの骨格を利用し外周を0.8mm目の防虫ネットで覆う技術である(図1)。
2. スピノエース顆粒水和剤5,000倍を秋果収穫期直前とその2週間後に処理することで、秋果へのアザミウマ類の寄生を防ぐことができる(図2)。
3. アカリタッチ乳剤1,000倍を、ハダニ類(主にカンザワハダニ)の成虫発生初期である7月中旬から1週間おきに3回散布を行うことで、葉への寄生を防ぐことができる(図3)。
4. ラズベリーの雨除け栽培において、アザミウマ類、オウトウショウジョウバエ及びハダニ類は図4に示した物理的防除と薬剤防除を組み合わせた体系により防除できる。

[成果の活用上の留意点]

1. 本研究で用いた白色反射資材は、商品名タイベック400WP(丸和バイオケミカル(株))、防虫ネットは、商品名サンサンネットSL-2700(日本ワイドクロス(株))である。
2. 雨除け被覆と白色反射資材は5月下旬(夏果の開花期)から11月中旬(秋果の収穫終了)まで設置する。また、防虫ネットは訪花昆虫の活動を阻害しないよう、夏果の結実を確認してから設置する。なお、秋果では小核果の不受精による不整形果が発生しやすいため、開花期(8~9月)に花器を指や梵天でなでたり、ミツバチの放飼を行い自家結実を促す。
3. ハダニ類の発生が8月中旬以降も続いた場合は、アカリタッチ乳剤1,000倍の散布を1~2回追加して行う。

[具体的なデータ等]



図1 白色反射資材と防虫ネットを設置した雨除けハウス（左：ハウスの外観、右：ハウス内部）

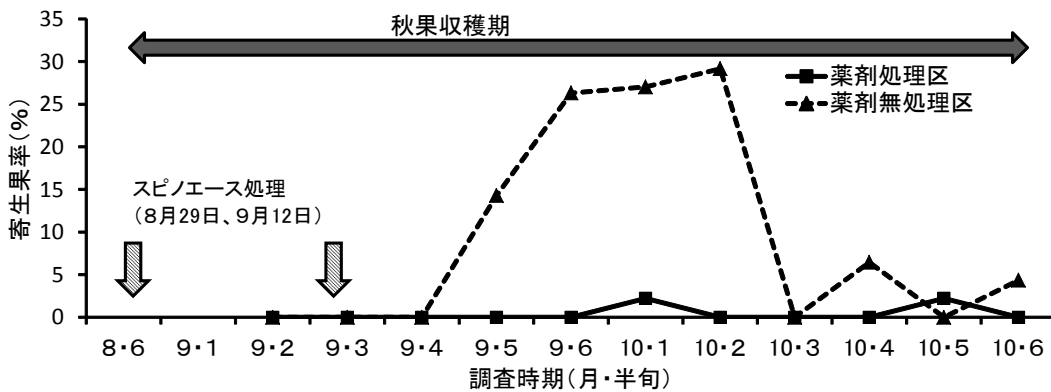


図2 果実へのアザミウマ類寄生率の推移（2014年秋果）

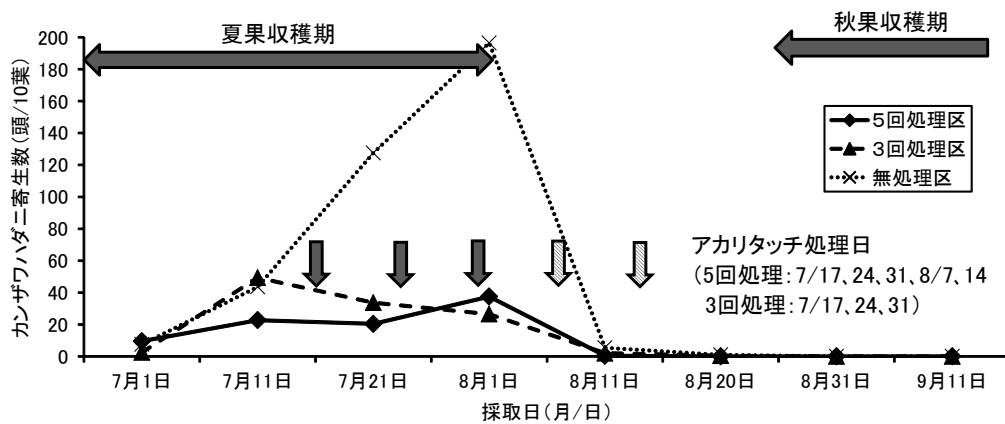


図3 葉へのカンザワハダニ寄生数の推移（2014年）

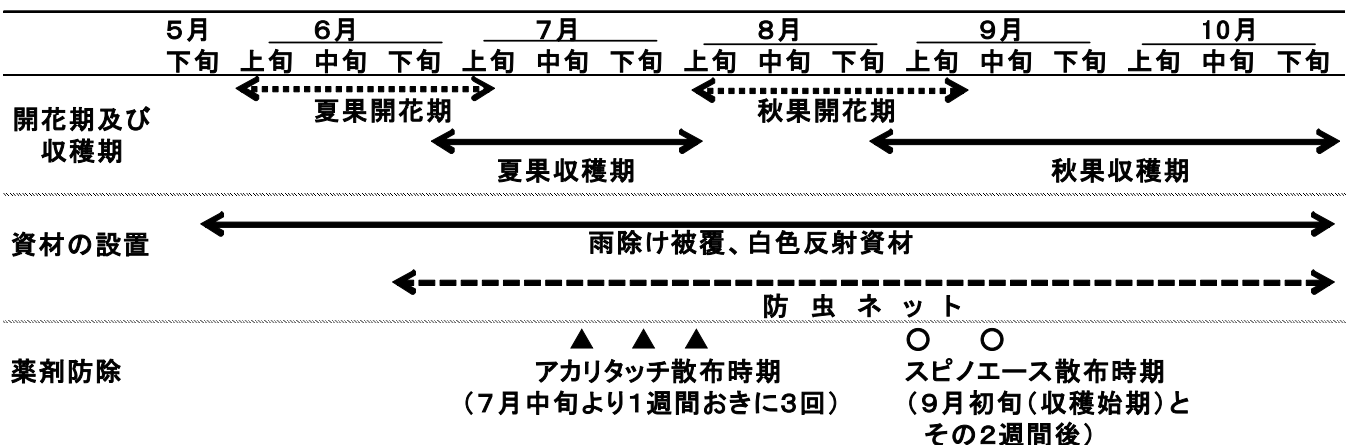


図4 ラズベリー害虫の防除体系

[発表論文等]

なし